

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-B-8		更新日	2025/2/5
サイト名		旧暦10月10日 ^{かみむかえ} 神迎の舞台～ ^{いなさ} 稲佐の浜			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	出雲市大社町杵築北稲佐			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(130台程度) 山陰道 出雲インターから約10km、約18分。稲佐の浜駐車場がある。			
	留意点	2022(令和4)年度にジオサイトから文化サイトに見直した。			
サイトの解説	歴史・文化	『古事記』や『日本書紀』で、天照大神(あまてらすおおみかみ)が大国主神(おおくにぬしのみこと)に国を譲るよう差し向けた武甕槌神(たけみかづちのかみ)と足の速い天鳥船神(あめのとりふねのかみ)(『日本書紀』では経津主神(ふつぬしのかみ))の二神が降り立った「伊耶佐(いざさ)の小浜」がこの地名の起源となっている。 稲佐の浜にある弁天島は、神仏習合の頃には「弁財天」が祀られていたが、明治のころから 豊玉毘古命(とよたまひこのみこと)が祀られている。屏風岩(別名国譲り岩、写真右)は、高天原からの使者として派遣された武甕槌神がこの岩を背にして、大国主大神と国譲りの話し合いをされたと伝えられている。			
	地形・地質、生物・生態等	出雲大社の真西、出雲市大社町杵築北～杵築西に伸びる約2kmの砂浜海岸で、その砂浜は稲佐の浜海水浴場として整備され、日本の渚百選にも指定されている。浜の中央に屹立する弁天島はかつて沖合の小島だったが、大社漁港の整備や離岸堤の設置などにより砂浜が拡大し、昭和末期ころには陸繋ぎになってしまった。『出雲国風土記』にある門石島(かどいしじま)がこれにあたり、高さ五丈(15m)、周り四十二歩(75m)「鷺の巣がある」と記載されている。流紋岩質火砕岩からできている。古くは弁財天を祀っていたが、現在は豊玉毘古命が祀られている。砂浜の砂を掘ると黒い帯状の模様を観察することができる。これは磁鉄鉱が集積したもので、江戸時代に盛行した鉄穴流しに起因する。神戸川や斐伊川上流から運ばれてきた土砂に含まれていた磁鉄鉱粒が波の影響で比重選鉱された。江戸時代にはこうした砂浜から採集される磁鉄鉱は「浜砂鉄」と呼ばれ、たたら製鉄の原料として利用されていた。			
せいたい					
参考文献					

稲佐の浜と弁天島

屏風岩(びょうぶいわ)